

懇談会 議事録

【司会】

ただいま町民安全課より説明のございました内容について、ご質問等がございましたら、お手を挙げていただき、座長が指名させていただきます。その場でご発言をお願いします。ここからの進行につきましては、副町長をお願いします。

【座長：水野副町長】

はい、それではよろしくお願いします。

まずもって今日会場にお越しの皆さんの状況を確認させていただきたいので一つ質問をさせていただきます。

今日この会場へ自家用車以外の手段で来た方がお見えになりましたら少し挙手をお願いしますと思います。

< 3名挙手。うち2名は自転車、1名は徒歩 >

今3名の方が自家用車以外の手段で、こちらの方へお越しいただき、残りの方については自家用車でお見えになったということで、いろんな大口町の調査の中でも、やはり自家用車が移動の中心ということは間違いのないということです。

公共交通を考えるに当たりまして、前半の部分では、今現在、自家用車が中心という生活の中で、こんなことに困っている、もっとこんな風になるといいなというようなご意見をまずはいただきたいと思います。その後、いずれ何十年かして自分が車に乗れなくなって、免許を返納した後、将来的にこんな風になるといいなというようなお話を聞く時間を設けたいと思います。

まずもっては、今、この自家用車が乗れる、自家用車で移動ができるという状況の中で、今の状況についてもっとこんなふうになるといいな、巡回バスに限らなくても結構です。

例えば、公園へ遊びに行くのに公園に駐車場ってないよねというようなお話でも結

構ですし、今現在の生活の中で何かもっとこうなるといいなというようなご意見があったらぜひお伺いをしたいと思います。

【参加者】

通院に巡回バスを利用しており、今は朝6：37のバスで江南駅に出ています。柏森駅や布袋駅に出たくても出られないので、もう少し行先が増えるといいと思います。今のバスの乗客は高校生もいるが、もっと便利が良くなったら、学生や通勤の方も利用できるのではないかしらと思うし、6：37よりもう少しあとの時間があればいいと思っています。

大屋敷に住んでいますが、6：37に乗ると次が9：40頃しかないなので、この間に鉄道に乗るためのなんらかの手段があるとありがたいなあと思います。

【座長】

大屋敷から江南駅へ乗り入れることはできるが、布袋駅や柏森駅へ出るような路線があると非常に便利。あるいは時間の問題というようなお話ですけども、事務局の方で何かお答えできることがあれば。

【町民安全課：近藤課長】

中部ルート朝の便の質問だと思いますが、先ほど説明をした国の法規によって減便をしました。2024年問題で中部ルートに限らず、他のルートも朝夜の便を減らしております。2024年問題でドライバーの休憩時間を確保しなさいというものが提示され、9時間の休憩時間をとらなくてはいけないため、減便したところです。今時刻表を確認したところ、(中部ルートの朝6時から9時の間が)だいぶ空いてしまうという形にはなっていますので、ご意見として検討させていただきたいと思います。

【座長】

ちょうど今、質問の方は通院で使われているとのことでしたが、よく皆さんからお聞きするお話として、直接江南厚生病院へ巡回バスが乗り込むといいよねとか、直接

小牧市民病院に乗り込むといいよねというお話をよく耳にします。なかなかこの部分ってというのが、町でやろうと思うと、名鉄バスさんとの関わりがあったりいろんな部分で難しい部分があるんですが、そうした中でちょうど今、南地域のところで、サポートカー事業というものがあまして、そこではおそらくたくさんの方が直接ご自宅から通院で江南厚生病院まで送っていただいたり、というようなことをやっています。

本当は最後にサポートカー事業をやってみえる方に少しお話をしてもらおうかなと思ったのですが、ここでちょっと今、南地域で行っているサポートカー事業についてちょうど今日ドライバーをしている方がお見えになっておりますので、少しお話をさせていただくと助かりますが、どうでしょうか？

【参加者】

南地域の方でサポートカーのドライバーをしています。サポートカーは現在3人でドライバーをさせていただいております。

サポートカーは9時～16時まで、月～金しか動いていません。1月は120回運行しております。増えては来ているが、まだ余裕があるのでぜひ皆さんに利用していただくと良いと思っています。利用は通院が多く、午前中に集中しております。会員制で80名ほど登録があり、前日までに予約をすると利用できます。

今後のことを考えますと、大口もどんどん高齢化しまして、あと10年ぐらいすると約40%が高齢者になってくるということです。今利用されている方は足が悪く、コミュニティバスが使えない方が多く、バス停まで10分20分歩いて、待っている時間が耐え難いという人が多いです。無料であって、大口町の事業なので気軽に利用してほしいが、利用者の中には「自分ばかりが何回も使うと申し訳ない」「ほかの人にも使ってもらいたい」と遠慮される方が多いように思っております。

今は南地域だけに行っていますが、北地域の中でもそういう声がございます。病院へ迎えに行くと、南地域の方はサポートカーで帰るが、別の地域の方はタクシーで帰らなければならない、ぜひやってほしいという声も聞きます。中地域は駅まで近いので、あまり重要視されていないですが。

【座長】

ありがとうございます。

南地域のサポートカー事業、80名ほどの利用登録があるとのことですが、これは地域のボランティアさんにやっただけで、それを公共交通として頼り切ってしまうのは間違った方向だと、地域の課題を解決するために南地域の方たちが立ち上げたものである、町としては地域の課題解決をするために十分支援をしていくという形で今後も広がっていくと良いと思っています。

それでは他の方、何か今現在、まだ自分が車乗れる、車での移動が中心だけどころなことに困っているということがあればぜひご意見をお聞かせいただければと思います。

【参加者】

南地域に住んでおり、母もサポートカーに登録はしているが、遠慮して、娘である私が仕事を休んで医者へ連れて行っています。今サポートカーを利用しているのはさくら大学に行くときだけです。

また、姉が全身麻酔の検査で土曜日の朝さくら病院へ行くことがあったが、大屋敷から歩いてさくら病院まで行き、帰りはさくら病院から一期一会荘までバスでそこから歩いて帰ってきました。

働く世代の人も検査等の事情で運転できないことがあるので、家族の困りごととして実感しました。

【座長】

働く方でも病気などで、帰りに車の運転ができないということで、交通関係で困るというようなお話をいただきました。

最近、タクシーを電話で呼んでもなかなかタクシーが来ないというお話をよく耳にします。今アプリ登録をしてスマホで事前に予約をしていくとタクシーがその時間に来てくれるというサービスというのがあります。

タクシーアプリで予約というのを使ってみたことがある方お見えでしょうか？

<2, 3名拳手>

やっぱりまだ若い世代中心になりますね。

よくタクシー呼んでもなかなか来ないというお話をよく耳にするんですが、そのときはやっぱり電話でタクシーを呼ぼうとされていて、そうするとタクシーの運転手さんも少ないという中では、やはりなかなか難しい。

そうしたときにタクシーのアプリを使うと、事前にわかっている場合、決まった時間にご自宅までタクシーが迎えに来てくれるんですが、町民安全課の方でその辺説明できますか。

【町民安全課】

タクシーアプリとしては、GOやUberというアプリがございます。

電話をかけるとなると、例えば名鉄タクシーだとその会社に電話をかける形になるので、その会社がだめだとなかなか捕まらない。しかし、アプリで登録すると1社だけではなくて、全てのタクシー会社に対して空いているところを探す形になります。これがタクシーを捕まえやすい理由であろうと思っています。

ただ、これも地方だったり、都市部だったりして、その辺の使い勝手はまた変わっていきます。この地域に対しては、タクシー会社は結構ありますので、そういった意味では電話をかけるよりは、おそらくこのアプリで登録したほうが確実に捕まるのではないかと考えています。

それに関連して、長寿ふくし課で外出支援サービスをやっているところですが、このチケットがこのようなアプリでも使えるようにならないだろうかとは個人的に考えているところです。

【座長】

高齢者の方の外出支援で、町ではタクシーチケットや巡回バスの回数券をお配りしています。こうしたタクシー券の中にタクシーを呼ぶための二次元コードが一緒にお渡しできると使いやすくなるのかなという気がしますが……

実際にタクシーのアプリをスマートフォンで使う等、スマートフォンの利用に不安があるという方、会場にみえますか？

例えばスマホの使い方よくわからないから、なかなかアプリがあっても、それ難しいよねっていうような方は……

< 1名挙手。他、高齢の母がスマートフォンを所持していないという話も >

スマートフォンではない携帯を使って見えるという方もみえたということですが、スマートフォン、なかなか年配になってくると使いこなせないというお話をよく聞きます。

タクシーのアプリって僕も時々使うんですけども、タクシーに乗るには非常に便利だからと思って使っているんですが、実際年配の方がそれを登録して使えるのかというと難しい部分もあると思います。

例えば講習会を開くですとか、そういったことをやって年配の方もそうしたものが使えるようになると、より暮らしやすくなるのかなと感じます。

他にご意見がありましたら。はい、どうぞ。

【参加者】

バスのルートを決めるときに実際にバスに乗車して停留所を決めたという話でしたが、以前は82と42の停留所の間、大御堂の集会所のところにバス停がありました。減便により遠いところだけが残ってしまったため、バス停を戻してほしいと3度ほど長寿ふくし課にお願いをしたが検討されていないのか……利便性がなくても集会場なら真ん中にあるので、そこを戻すようぜひ検討していただきたいとお願いしにき

ました。

【座長】

バスルートの変更の関係で、ちょうど大御堂中心地にある大御堂集会所の停留所がなくなってしまうと、大御堂の地域としては、端の方だけに寄ってしまったというようなご意見でよろしいですね。

このルートの変更にあたって、どういう考え方でこういった変更をしたのかということについて少し説明をしていただけますか。

【町民安全課】

2024年問題のときに変更があったものです。そこのバス停を通ることによって、バスの運転手さんの休憩時間が取れないということが発覚しました。そのため苦肉の策として、距離やバス停を減らし、運転手さんの休憩時間を取れるように調整させていただきました。今回、意見としていただきましたので、またルートを考える際には検討材料とさせていただきますと思います。

【参加者】

大御堂の入口に近いところより本郷へ行く方が近く、不便なので大御堂の人はほとんどだれも利用していないのではないかと思います。

【座長】

ルート変更については、変更前後において地域の方の意見を聞く場は設けていますか。

【町民安全課】

変更する際は、公共交通推進会議で周知はさせていただいているが、住民の方にそこまで伝わっていなかったというのはこちらの問題だと思っております。引き続きこ

ういった問題については皆様への周知を図りたいと思っております。

【座長】

2024年問題でこれまでのルートを走るとは難しいということで公共交通会議の中で話をしながら減便やルートの短縮を行っていたが、やっていくごとに地域の皆様からいろいろな意見があがってきます。そうした中ですべてには難しいが、柔軟な対応も今後必要になってくるのかな、と。例えば、道路幅員が狭くて走れないのであれば、その道路そのものがどうだろうということも一回考える必要があります。巡回バスが走れない道路に消防車や救急車が入っていけるものなのかとか、そんなことまで考えていく必要もあると思います。道路が狭いから入れないよってという考え方だけではどうかなと思いますがその辺どうですか。

【町民安全課】

まちづくりという観点で道路幅員を広げる等、多面的なところで考えていかねばならないというのは思います。

【座長】

他に何かご意見があれば。

【参加者】

以前住んでいた福岡では移動手段に困りませんでした。そこから母を呼びましたが、病院に行きたくてもバスがない、バス停まで遠く、母を病院に連れていくには仕事を休んで家族が車で送迎しなくてはいけない。まちづくりの観点としては、自分で行きたいときに行きたいところにいけるのが理想だと思っております。そこにどれだけ近づけるかが重要だと思っています。交通インフラを整備するということは大口町にとっての最重要課題のひとつだと思うので、これからのことを話し合うことに期待しています。

【座長】

今の話の中で行きたいときに行きたいところへ行けるという話がありました、事務局、どうでしょうか。

【町民安全課】

行きたいところに自由に行けるのが理想だと思います。そこに対して行政としてどこまでコストを抑えて、交通インフラを整備するかというところが非常に難しいところだと考えています。大口町では2024年問題を受けてルートを大幅に減らしましたが、他市町では、これに対応できず運輸局に入られているという話も聞きます。

団塊の世代が75歳を超え、75、76歳くらいだと運転はまだやっている方が多い感覚ですが、その方たちは5年後も運転ができるのかということそれは難しいと思います。この団塊の世代が一気に免許返納となったときにどうなるのかということは考えております。希望的な話にはなりますが、5年10年のうちに自動運転のような技術が発展し、自動運転でタクシーが配車等できるようになったら、公共交通もカバーができるようになっていくのではないかと考えております。

【座長】

担当課の方では難しい部分があるが、公共交通を考えるうえで、究極の目的は「いつでも行きたいところへ誰でも行けること」。これを最終の目標にしていろいろな計画を作っていくべきであろうとは思っています。

【参加者】

バス停のことについて意見が多いと感じました。ルートを走っている間に停留所以外でも手を上げたらバスが止まってくれるシステムを使っている町があるそうです。そういう町を調べたことはありませんか。

【座長】

今現在のルールはバス停があり、乗降については必ずバス停でしていただくという

ものですが、ルート上であれば乗りたい人がいつでもバスを止めて乗降できるという……事務局、承知していますか。

【町民安全課】

初めて聞いたパターンですが、おそらく定時定路線以外のデマンドバスに近い形のバスであれば可能なのかという気がします。一度調べてみます。

【参加者】

バス停まで遠いという意見があったので、バスが来て乗りたいときに手をあげて乗れるようになると利便性がまた変わってくると思うんですけども、一度調べてみてください。

【参加者】

知り合いの方の話ですが、2024年前まではドン・キホーテへ買い物に行くのに10時前のバスに乗れて昼前に帰ってこられたが、帰りのバスがさくら病院で止まってしまったため、買い物にいつ帰ってこられるのが1時すぎになってしまうとの話を聞きました。今はバスがないため、80代の方が自転車で買い物にいつているそうです。外坪区は高齢者が多く、免許書を返納した人も多いが、そういった人はこれからどうするんだろうと、もう少し地域の意見を聞いていただくとありがたいと思います。

【座長】

減便やルート短縮により地域の中ではなかなか不便になっているということで、こういったことに関して地域の意見を聞くことができないのかという意見ですが。

【町民安全課】

非常に心苦しいところではありますが、今回対応をしないと運輸局の監査が入って

しまうということで、下手をすると営業停止になってしまう可能性もあるため、苦渋の判断をさせていただいたところではあります。その中でもどういったことができるか検討していきたいと思います。

【座長】

巡回バスの利用が広がっていかない、赤字が膨らむ、ましてや2024年問題があって減便をする、ルートを短縮すると余計利用が減ってしまう。負のスパイラルに陥らないように、いろいろと知恵を絞って、地域の方のご意見を聞きながら巡回バスというのを利便性があるようにする計画を今後作ってほしいと思います。

それでは、ここで今回皆さんほとんどの方が乗用車でお見えになったということですが、少し先のことで、自分が車に乗れなくなったときの、今の大口の現状を考えてみてこういうことが不安だなということがもしあれば。

将来的に車に乗れなくなったら今のこの状況ではちょっとこういうところは不安だなということがもしあればご発言をいただければと思います。

【参加者】

母が生活習慣病を患っており、すすいクリニックに通っているが、大御堂からすすいクリニックに行くバスがなく、サポートカーの方にお世話になっています。みんなの要求を満たすことは難しいと思うが、例えば学区で分けて第一水曜日は南小学校区の学供を回っているいろいろな病院に行けるといような、柔軟な対応ができないか検討をお願いしたいです。

【町民安全課】

定時路線の枠の外でという形だと思うのですが、病院に行くため、買い物に行くため、という限定的用途の話は、公共交通の枠の外で検討させていただきたいと思いません。

【参加者】

自分が免許返納したあとを考えたとき、バスがそこまで（10年後とか）継続できるのかをお聞きしたいです。

【座長】

バスの継続が将来に渡って大丈夫なのか

【町民安全課】

継続はしていかなければならないと思っております。昨今の物価高で経費は右肩あがりにはなっているが、皆さんの足を確保するという点で継続はしていきたいと思っております。

【参加者】

公共交通自体が非常に重要な地域であると考えています。近くのバス停ではなく、集約したバス停で便数を減らすと条件は変わっていくと思います。

例えば、小牧や犬山も同じ企業がやっているかと思うが、相互に乗り入れにより合理化できるのではないかと。今は柏森駅、江南駅、布袋駅へバスが接続しているが、楽田駅や小牧駅にもアクセスできるのであれば利便性があがるのではないかな、と。

通勤や駅利用が多く、買い物と合わせると60%くらいの方がその目的で利用されているということで、行きたいところにいつでも行けるが理想ではあるが、利用者側にも妥協は必要だと思えます。便数を減らしてそういうところにアクセスしやすくするのもひとつの方法ではないかと思えます。

バス停を拠点化して、拠点のバス停からそういった駅に行くようにすると、今後考えていく中でそういったことも考えていただければと思います。

【座長】

犬山、小牧との相互乗り換えにより合理化できないかということですが、実際相互

乗り入れは始めていますか。

【町民安全課】

実際には小牧や犬山のバスが大口町内に乗り入れています。今後もそちらの市町と連携を取りながら乗り入れについては検討していきたいと思います。

【参加者】

前の資料を見て、こんなにたくさんのお金がかかっていることに驚きました。客数で割ると非常にお金がかかっている。サポートカーは乗客を乗せて走ることに加え、場合によっては1回で2、3人乗せて順番に送っていくので、今は南地域しかやっていないんですが、北地域も早く実現させてサポートカーを充実させていけるとありがたいです。

【参加者】

アンケートの回答をした方が30代50代中心となっているので、駅等が多いと思うが、これが60、70、80代中心のアンケートだとしたら、ドン・キホーテや病院等が中心となるような、今と全く違う結果になると思います。

これから大口町も高齢者が増えていくということなので、高齢者をもう少し中心に置いて考えていただけると。例えば、今はバスが町内を大きく回っているが、南地域だけ、北地域だけをまわるような小回りをするような形にならないでしょうか。

【座長】

南地域なら南地域の中だけをぐるぐる回っていくというようなお話の中で、ちょっと視点が変わってしまうかもしれないのですが、今年5月末をもってヨシツヤさんが閉店をされるというお話が出ています。今まで大口町では南部にヨシツヤがあり、中部にドンキがあり、北部にはバローがあり、南中北それぞれに大きなスーパーがあったわけですが、例えば南のヨシツヤがなくなってしまう、そうした場合には、南地域だけをぐるぐる回して、そういった方をバローとかドンキへ運ぶというようなバスとい

うのは考えられないんですか。

【町民安全課】

ヨシツヤがなくなることによって、そのバス停もなくなります。そういったことに対して、そういったバスの必要性はおそらくあるのだろうということで、その辺は検討の方をさせていただいているところであります。

【座長】

この意見の前にも大御堂の女性の方からも南だけをぐるぐる回したり北だけをぐるぐる回したりというようなことできないかという意見がありました。こういったことがまた一つの手法だと思しますので、今後、地域公共計画を作る中でそういったご意見を踏えながら計画を作っていければと思います。

時間的におそらく最後になるかと思いますが、そしたらこちらの方まだ意見いただいてなかったと思いますので、どうぞ。

【参加者】

2点ありまして、1点がバス停の安全の確保というところで、あまりコミュニティバスを使ったことがなくて恐縮なんですけど、私の家宗雲が一番近いんですね。ここは道路の歩行者のラインが非常に狭くて、結構車がスピードを出して走りさるので、バスの利用者の方も結構スピードを感じているのではないかとということで、バス停の安全の確保をどのように考えていますかということです。

もう1点が大口町に対応したタクシーアプリというのがわからず、以前飲み会の帰りに布袋駅でGOというアプリとD i D iというアプリ入れましたが、どちらもエリア対応していないということがありました。こちらは江南市の管轄になるので、関係ないのかもしれないんですが、大口町の方も布袋駅を使っている方たくさんいらっしゃると思うので、このアプリだったら使えますと、タクシー絶対呼べますというアプリがあれば、そういった情報交換もしていただければなという点でよろしく申し上げます。

【座長】

はい、じゃあ2点いただきましたのでお願いします。

【町民安全課】

バス停の安全確保につきましては、県の方で危険な場所ではありませんかという調査がありまして、そういった箇所については改善しなさいよという形で、今のところ、A、B、Cの形で判定が出るんですけども、危険なところは改善させていただいている状況ではあります。

ただ、今の道路、バス停の近くを車が走って危ないというところで、ちょっとバスの話は離れるんですけども、交通安全の話で、今年の9月からいわゆる生活道路が60キロ規制から30キロ規制になります。そういったことも町民安全課の方で積極的に啓発していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

タクシーアプリのことにつきましては、ごめんなさい、さっきこういうアプリで呼びましようっていうことを言ったんですけども、実際私使っていませんので、その辺は、私も研究させていただきたいと思います。

【座長】

それでは予定しました時間となりますので……

<一人挙手>

では手短にお願いいたします。

【参加者】

すみません、ありがとうございます。手短に行きます。

私も将来的に不安があるので、ぜひ言いたいなと思ひまして、朝夕の交通量、輸送量を考えると今のコミュニティバスをなくすことはできないと思います。日中もいきなりなくすのではなく、犬山市さんがこれから行うような日中便を週に2日とか3日に減らして、その減らした分、公共ライドシェアの実証実験をすると。どちらが使い

勝手がいいですかということを経済的に市民に聞いて使い勝手がいい方を導入するということが犬山市さんが始めます。ですから、大口町の方も、ぜひまず国土交通省の中部運輸局と話されて、実証実験するにあたっての補助金は何が出せるかということを知って、大口町でも日中便を週に2日とか3日に減らしてもらって、運転手が確保できるのであれば、その分ライドシェアを導入するとか、あおい交通さんが進めるデマンド交通を入れてみるとか、あとは以前あった東海理化さんの話をもう一回話してみるとか。サポートカーでもデイスサービスの車でも1回相談してみるとか、チョイソコさんの形態みたいなことを導入してみるとか、いろいろやってみて、町民の声を聞いて、これが一番使い勝手がいいなということで最終的には決めてほしいということがあります。

私もフリー走行、先ほどおっしゃった手を挙げれば乗り降りできるっていうのを乗りに行きました。本当に便利ですけど、これは道路幅や交通量で中部運輸局の許可が降りないことが多いです。だから許可がおりるかどうかは調べてもらわないと、わからないです。

そして先ほども近藤課長の方から話がありましたけど、将来的には自動運転をつかう、私のひ孫の頃には大口町に自動運転のバスタクシーが走っていると思っています。ですから、まず基幹ルートあたりでレベル2の実証実験、なかなか今自動運転の手を挙げて政策が通らないらしいですけど、将来基幹ルートで自動運転をする。

そして例えば、健康文化センターがあるところをパークアンドライドの拠点にしてもらって、ここに自転車や車で来れば、ここから出ているバスがどこでも行けるようなパークアンドライド方式とか。

あとはここにモビリティハブですね。いろんなところでやっていますが、例えばコンビニのイトインを待合所にすれば、雨でも夏も真冬も快適にバスやタクシーを待てる。そういうモビリティハブの拠点、今ホンダさんやコンビニさん、いろんなところが協力しています。そういうモビリティハブの構築や、あとはカーシェアやシェアサイクリングを置く、そういうことも含めて、あらゆる移動手段を試してほしいと私は思います。

これは直近の話でも将来的に大口町は本当に住みやすいまちづくりとして移動手段としてあらゆることをやっていたらいいなという思いを込めましてよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【座長】

ありがとうございます。

やっぱりいろいろな実証実験をやって、町民の皆さんの意見を聞きながら、大口町にどれが一番合っているんだということをやっていくことが必要なのだと感じています。それでは時間になりましたので、最後皆様方の意見を聞いて町長からひと言お願いします。

【町長】

いろいろなご意見ありがとうございました。

やりたいことはあるが、先ほど見ていただいたように毎年5000万か6000万かという赤字があります。

実は自動運転の話はトヨタの小さいバスのようなものを走らせてはどうかと見に行ったことがあります。柏森駅からドンキのあたりのところまで自動運転できないかとかいろいろなことを考えていますが、今日皆さんがいろいろと苦労しているという話を聞いてより真剣に考えねばならないと思いました。

皆さんがいいとおっしゃる100%は絶対的に不可能ですから、50%が60%になり、60%が65%になれば改善されたというようなことだろうというふうに思っておりますので、ぜひそういう意味でもっと犬山の話や小牧の話も出ていましたし、2024年問題だとかいろいろな問題がでてきます。サポートカーも町の車を提供させていただいているということですが、もう少し大きい車を買って、それをまわしたらどうかというのも思いました。

先ほど南地域をぐるぐる回ったという話も出ていましたけれど、サポートカーで南の地域をぐるぐるまわるってできますか？

【参加者】

できますよ。車乗る誰かさえいれば。

【町長】

例えば、ここ健康文化センターにバスターミナルのようなものを作って、南地域をハイエースでまわり、皆さんをピックアップしながら健康文化センターに到着する。そしてそこから基幹バスを走らせた方が便利いいのではないかとも思いました。これからどうしていくかというのはまた考えていかななくてはならないが、それで赤字が減るのであればいいのではないかと思っているので、ぜひまた個人的にもご意見いただければ、町民安全課に言っていただければ話聞きますので。

ただ、皆さん個人の問題ではなく、地域全体のこと、町全体ということになるので、100%をお聞きすることは多分不可能だと思っているので、そのあたりはご理解のほどをよろしくお願いいたします。

今日の1時間半の会議で進行してくれた皆さん方、ご意見をいただいた皆さん方のことをこれからも真剣に考えてまいりますので、ぜひご協力のほどよろしくお願い申し上げます、本日のお礼に変えさせていただきます。

本日は大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。

【座長】

それでは座談会の方はこれで終了させていただきまして、進行の方へ戻したいと思います。